

私の薦める、私の一冊

**薬理学分野 教授 大矢 進**

大槻 久 著『協力と罰の生物学』  
岩波科学ライブラリー(2014)

「君はまるでセイヨウオオマルハナバチみたいだね」と言われたら、褒められているのでしょうか？

本書では、自然界に溢れる生きものの生存競争が『協力』という“自己犠牲”によって成立していることを色々な生きものを例に挙げて紹介している。興味深いのは、自身は協力せずにある集団が構築した協力システムを利用する「フリーライダー（ただ乗り者）」が様々な生きものに存在し、これが協力システムに壊滅的なダメージをもたらすことである。しかし、協力システムの破綻を防ぐために、フリーライダーには過酷な『罰』（殺し・追い出し・仲間はずれ）が待ち構えている。

まず、自然界に溢れる『協力』について紹介している。排水口の悪臭の原因であるヌメリ汚れの「バイオフィルム」もバクテリアの『協力』戦略だと思えば、どこか愛おしく、生きものの健気さを感じる。次に、自然界の様々な場面で登場する「フリーライダー」について紹介している。「フリーライダー」は自身欠点（生育不良など）を持っており、それを補うために他者の『協力』システムを巧みに利用するが、自身が優位に立つとたちまちバランスが崩れて共倒れする。中盤では、個々の利益を追求すると『協力』が達成できないこと、つまり、『協力』と『フリーライダー』は両立しないことを「囚

人のジレンマ」を例に挙げてわかりやすく説明している。

終盤では、フリーライダーに対する『罰』のシステムを紹介している。有名なマメ科植物と根粒菌の共生関係の中で根粒菌がサボると『制裁』というべき過酷な『罰』が待ち受けている。最後に、「ヒトは罰を与えることにより快感を得る」という興味深い事例を示している。しかし結局は、「罰を与えるタイプの人」は周囲から評価されないのです。

あなたは身の回りの人たちをどの生きものに例えるのでしょうか？この本を読み終ったとき、人間関係に関する悩みがそれほど複雑でないように感じられるかもしれません。

最近、発行された同様な著書に、進化生物学者（北海道大学大学院農学研究科）の長谷川英祐 著の『働くアリに幸せを』講談社(2013)、『面白くて眠れなくなる生物学』PHP研究所(2014)があるので、合わせて紹介します。

※本書は図書館内の本誌推薦書コーナーにあります



Library News

図書館

開館日程

2014年 10月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

2014年 11月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

2014年 12月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

休館
  8 : 30-21 : 00
  8 : 30-17 : 00
  10 : 00-17 : 00
  休館=館内整備